



発達障害の内容や本人とその保護者が望むことを説明する齊藤さん

寄り添いの大切さ学ぶ

鳥取人権擁護委協
発達障害がテーマ

鳥取人権擁護委員協議会の定時総会が11日、鳥取市のとりぎん文化会館であった。鳥取県内の委員約40人が出席し、発達障害をテーマにした講演を通じて障害への理解と寄り

添いの大切さを学んだ。

困り感を抱える子を支援する親の会「らっ

きよつの花」の齊藤里依さんが「再生のものがたり」『わかって欲しい！』に寄り添った関わりを地域に拡げ「て」をテーマに講演した。

小学1年時に発達障害と診断され、現在は大学生の息子がいる齊藤さん。学校とのやりとりや大学進学など夢を実現させてきたこれまでの歩みを織り交ぜ、一般的な発達障害の内容や本人と保護者の思いを説明した。

早期発見、早期療育と切れ目ない支援の重要性を説き、「支援は恥ずかしいことではない。自立する力を備えるための権利だと胸を張って利用することが大事」と指摘。「困った人は、困っている人。親子ともに支援を必要としているのだ」という視点で接してもらえるとありがたい」と適切な対応につなげるヒントを伝えた。

(中西理恵)